

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和6年6月6日  
(前回公表年月日: 令和5年6月9日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
太田動物専門学校	平成15年3月31日	野口 哲	〒370-0044 群馬県太田市台之郷町1060-1 (電話) 0276-49-2885																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人MGL学園	平成15年3月31日	野口 哲	〒370-0044 群馬県高崎市岩押町58-4 (電話) 027-321-0411																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	ペットビジネス学科	平成17年文部科学省 告示第30号	—																						
学科の目的	愛玩動物業界において即戦力として活躍できるよう、実践的かつ専門的な能力を養い、また、起業できるよう、愛玩動物産業の事業者を養成(育成)することを目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日:職業実践専門課程認定																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
2年	昼間	87単位	90単位	28単位	76単位	0単位	実習にて実施 単位																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
74人	47人	0人	5人	12人	17人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験・履修状況を企業と連携し、5段階で評価(1は不可)																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:7月28日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月25日～3月31日		卒業・進級 条件	2年以上在学し、87単位以上履修し授業科目の評価基準に基づいて課程修了を認定。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 Webポータルを使用した学生保護者学校の連携体制・三者面談・個人面談・タブレット端末を使用したEメールでの相談・指導		課外活動	■課外活動の種類 キャリアサポートスタッフ(CSS)・リクルートサポートスタッフ(RSS)・スクールライフサポートスタッフ(SLS)・オープンキャンパススタッフ(OCS)・吹奏楽部等 ■サークル活動: 無																						
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和5年度卒業生) 動物病院・ペットショップ等ペット業界及びペット関連業界 ■就職指導内容 ・ペット業界合同就職説明会東京会場への参加 ・MGL学園主催企業合同就職説明会の開催 ・就職試験対策や面接対策、就職相談等 ■卒業者数 38 人 ■就職希望者数 34 人 ■就職者数 : 34 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 89.47 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和5年度卒業者に関する 令和6年5月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) ※資格取得実績20資格のうち合格者数の上位4資格を表示 <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>愛玩動物看護師</td><td>②</td><td>19人</td><td>15人</td></tr><tr><td>家庭動物管理士3級</td><td>③</td><td>49人</td><td>49人</td></tr><tr><td>全国キャットクラブキャットマイスターB</td><td>③</td><td>27人</td><td>25人</td></tr><tr><td>日本動物専門学校協会トリマー3級</td><td>③</td><td>55人</td><td>55人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 平成27年10月にイタリアミラノで行われたワールドグルーミングチャンピオンシップ(国別世界一決定戦)に日本が初めて出場権を獲得し、この日本代表に卒業生が選出された。			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	愛玩動物看護師	②	19人	15人	家庭動物管理士3級	③	49人	49人	全国キャットクラブキャットマイスターB	③	27人	25人	日本動物専門学校協会トリマー3級	③	55人	55人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
愛玩動物看護師	②	19人	15人																							
家庭動物管理士3級	③	49人	49人																							
全国キャットクラブキャットマイスターB	③	27人	25人																							
日本動物専門学校協会トリマー3級	③	55人	55人																							
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 令和5年4月1日時点において、在学者63名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者60名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学力不振・病気		■中退率 4.76 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※授業料等減免制度・一人暮らしサポート制度・遠距離通学サポート制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																									
当該学科の ホームページ URL	<a href="https://www.mgl.ac.jp/otasc/">https://www.mgl.ac.jp/otasc/</a>																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

近年における空前のペットブームにより、愛玩動物産業は一兆円産業に発展した。それに伴い業界では慢性的な人材不足に悩むことになった。このような状況から業界では実践的な人材を求め、サービスの質の向上により顧客満足度を上げ、更なる成長を図っている。そのために本校では教育課程の編成において、業界関連団体や関連企業等との連携を強く持ち、意見や要望・アドバイス等を取り入れ、カリキュラム改善等を主体的に行い、業界発展を担う人材の輩出に使命感を持って取り組んでいく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

1. 教育課程編成委員会は校長に対し、教育課程の編成について意見・助言を行う。
2. 校長は教育課程編成委員会からの意見・助言を受け、教務課・学生課・事務課・広報課との協議の上で、主体的に教育課程の編成を行う。
3. 校長は、原則として学則変更を伴わない範囲で、教育課程の編成を行う。
4. 教育課程の編成で学則変更が予測される場合は、校長は教育課程の編成に取り掛かる前に、理事長に対し評議員会の開催を要請しなければならない。
5. 教育課程の編成を終えたら、校長は新たなカリキュラムを実行する。
6. 新たなカリキュラム実行に伴い、問題点や改善点があれば、校長はその時点で即座に改善し、次回の教育課程編成委員会に報告する。
7. 教育課程編成委員会は校長から報告を受け、さらにカリキュラムの改善に取り組む。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
野口 哲	太田動物専門学校 校長	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	
小島 章義	全国ペット協会 会長	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	①
赤澤 暁昌	全国ペット協会 理事	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	①
佐山 百合子	株式会社 デン・ケリー 副社長	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
安田 絵美	Dog salon NATURAL 代表	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	③
中井亜沙子	学校法人MGL学園 常務理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

定例の委員会は年2回開催する。(毎年10月に1回と、なるべく近い日程でもう1回)

また、必要に応じて委員長は臨時の委員会を招集することが出来る。

(開催日時)

第1回 令和5年10月18日 18:00～19:00

第2回 令和5年11月2日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(第1回)※カリキュラムの改善案:動物愛護法改正の動向と、それに伴う企業の求める人材育成のためのカリキュラム編成について。

(第2回)※カリキュラムの改善案:MGL学園トリミング競技会を各委員に見ていただいた上で、オブザーバー参加の世界的グルーマー、ピクチャーボードの指摘も踏まえ、実技授業の改善点について。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基礎的な技術は校内での実習授業でしっかりと習得させた上で、応用の分野で企業と連携していく。基礎的な技術ができた上での企業実習となると、企業へ迷惑をかけることが少なくなるだけでなく、企業から喜ばれる実習授業となり、学生の就職への強力なアピールの場とすることにもつながるので、就職支援やキャリアサポートにもつながっていく。そういった基本方針で取り組んでいく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

「2-(3)具体的な連携の例」に挙げた企業を中心に結んだ協定書や講師契約書等に基づいて、以下の点に留意しながら企業と連携した授業を行い、生徒の学習成果の評価についても企業と連携して評価する。校内実習で習得した基礎的だが専門的な技術を生かした企業実習とすることができるよう、企業が必要とする技術を校内実習で習得させてから、企業実習を実施する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な3科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護実習2	動物看護師育成のため、学校の動物病院実習施設で外来講師の獣医師が実習授業を実践的に行う。	エル動物病院
トリミング実習1	トリミング学を実習授業で実践し、トリミングの応用を身につける。また定期的に企業へ赴き、お客様の犬で実践的に実習を行う。	DOG&CAT Waltz
訓練実習2	犬の訓練士育成のため、学校に企業の訓練士を招き、企業の訓練士が実践的に実習を行う。	DOG&CAT Waltz

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
MGL学園「教職員教育、研修・資格取得規定」に従い、企業実習を行う企業との連携した実習授業を行うため、先ずは教員自らが企業へ赴き、企業で研修を受け、その企業が求める技術や知識を習得する。それを校内実習授業に反映させ、学生の企業実習授業が効果的なものとなるようにする。また、業界団体や学術団体の主催する技術講習会等に教員を積極的に参加させる。さらに、毎年海外研修を企画し、世界の最先端の技術を取り入れる。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

連携の協定を結んでいるDOG&CAT Waltzでトリミングや飼育・販売の実務に関する研修を行い、トリミング実習や訓練実習の授業の連携を深めた。また、獣医師の専門医集団のライブスと連携して、MGL学園附属動物高度医療センターで研修を行った。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

日本能率協会より教職員の指導力修得・向上のため、毎月講師を派遣してもらい、SD/FD研修を行った。また、技術力向上のため、世界大会等で活躍したビクターロサード氏を講師に招き、セミナーを行った。

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

年8回DOG&CAT Waltzでトリミングや飼育・販売の実務に関する研修を行う。

年5回MGL学園附属動物高度医療センターで動物医療に関する研修を行う。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

教職員の指導力修得・向上のため、年8回日本能率協会より講師を招いてSD/FD研修を行う。また、世界的に活躍している外部講師を招いて、技術力向上研修を行う。

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価をもとに学校関係者から評価・意見をいただき、企業実習を行っている企業や動物専門学校の団体との連携を深め、独善的な学校運営にならないよう、学校関係者評価を活用していく。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明文化されているか、有効に機能しているか</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>

(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に相談する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

平成24年度学校関係者評価を平成25年にホームページにて公表して以来、毎年学校関係者評価を行い、毎年公表している。令和5年度学校関係者評価においては、第2回愛玩動物看護師国家資格試験において高い現役合格率を達成したことが評価された。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
福岡 千尋	わんちゃんのとこやさんカルア	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	ペット関連企業の関係者
佐山 等	一般社団法人 日本動物専門学校協会	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	動物専門学校団体の関係者
神宮有里子	太田動物専門学校 卒業生	令和3年4月1日～令和7年3月31日(4年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 毎年6月～7月ごろ )

[https://mgl.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/gakkou\\_r5\\_ota.pdf](https://mgl.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/gakkou_r5_ota.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校は、学校教育法に基づき、企業等の学校関係者の理解を深め、これらの者と連携・協力するとともに、同法その他関係法令で定められた目的を実現するための公的な教育機関として、以下の学校が設定する項目を積極的に情報提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育・人材育成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色</li> <li>・校長名、所在地、連絡先</li> <li>・学校の沿革、歴史</li> <li>・その他の諸活動に関する計画</li> </ul>
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者に関する受入れ方針及び入学者数、収容定員、在学学生数</li> <li>・カリキュラム</li> <li>・進級・卒業の要件等</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等</li> <li>・資格取得、検定試験合格等の実績</li> <li>・卒業生数、卒業後の進路</li> </ul>
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員数</li> <li>・教職員の組織、教員の専門性</li> </ul>
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況</li> <li>・実習・実技等の取組状況</li> <li>・就職支援等への取組支援</li> </ul>
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況</li> <li>・課外活動</li> </ul>
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> </ul>
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金の取扱い</li> <li>・活用できる経済的支援措置の内容等</li> </ul>
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告書等</li> </ul>
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・学校関係者評価の結果</li> <li>・評価結果を踏まえた改善方策</li> </ul>
(10) 国際連携の状況	—
(11) その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 ホームページ ・ 広報誌等の刊行物

[https://mgl.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/guid\\_R6\\_ota.pdf](https://mgl.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/06/guid_R6_ota.pdf)

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペットビジネス学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスコミュニケーション (1年次)	ビジネス能力検定合格だけでなく、ペット業界独特のマナーにも対応し、キャリアサポートに結び付く内容とする。	1通	60	4	○			○			○	
○			ビジネスコミュニケーション (2年次)	ビジネス能力検定合格だけでなく、ペット業界独特のマナーにも対応し、キャリアサポートに結び付く内容とする。	2通	60	4	○			○			○	
○			ビジネス法規	動物愛護法に対応するため、外来講師の弁護士が実際に起きた事件やトラブルをもとに、実践的な演習・講義を行う。	2通	30	2	△	○		○			○	○
○			基礎情報処理	情報処理の基礎を学び、応用情報処理を学びやすくする。	1通	30	2	○			○			○	
○			応用情報処理 (1年次)	ワードやエクセルの使い方や、ホームページの作成等を学び、仕事や独立開業に生かす。	1通	30	2		○		○			○	
○			応用情報処理 (2年次)	ワードやエクセルの使い方や、ホームページの作成等を学び、仕事や独立開業に生かす。	2通	30	2		○		○			○	
○			英会話	海外研修の予行演習の一環として、英会話の演習を行う。	2通	30	2		○		○			○	○
○			ペットビジネス (1年次)	ペットビジネスの基礎・常識・倫理を学び、ペット業界で働くのかを考える。	1通	60	4	○			○			○	
○			ペットビジネス (2年次)	ペットビジネスの基礎・常識・倫理を学び、ペット業界で働くのかを考える。	2通	60	4	○			○			○	
○			グルーミング概論	動物の管理方法の基礎を学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	
○			グルーミング実習 (1年次)	トリミング学を実習授業で実践し、トリミングの基礎を身につける。	1通	210	7			○	○			○	
○			動物看護概論 1 (1年次)	動物看護学の基礎について学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	

○		動物看護概論 1 (2年次)	動物看護学の応用について学ぶ。	2通	60	4	○			○		○						
○		動物看護実習 1 (1年次)	動物看護学を実習授業で実践し、動物看護の基礎を身につける。	1通	60	2				○	○		○					
○		動物看護実習 1 (2年次)	動物看護学を実習授業で実践し、動物看護の応用を身につける。	2通	60	2				○	○		○					
○		販売概論	家庭動物販売士の資格取得を目指し、ペットショップで販売員として働くに際して、身につけておかなければならないことを学ぶ。	1通	60	4	○			○		○						
○		家庭犬行動学	家庭犬のしつけ方や飼い方について学び、飼い主に対してアドバイスできるように実習と座学で学ぶ。	1通	30	2	○		△	○					○	○		
○		国内ビジネス研修 (1年次)	国内の動物園等で研修を行う。	1前	8	↓			○			○	○					
○		国内ビジネス研修 (2年次)	国内の動物園等で研修を行う。	2前	8	1			○			○	○					
○		トリミング概論 (2年次)	トリミング学の応用を習得し、実技に生かす。	2通	30	2	○					○		○				
○		動物管理学	動物の管理方法の応用を学ぶ。	2通	30	2	○					○		○				
○		トリミング実習 1 (2年次)	トリミング学を実習授業で実践し、トリミングの応用を身につける。また定期的に企業へ赴き、お客様の犬で実践的に実習を行う。	2通	210	7				○	○	△	○	△	○			
○		トリミング実習 2 (1年次)	将来トリマーとして就職を目指す学生が選択するトリミング実習。	1通	180	6				○	○		○					
○		トリミング実習 2 (2年次)	将来トリマーとして就職を目指す学生が選択するトリミング実習。	2通	180	6				○	○		○					
○		トリミング実習 3 (1年次)	将来トリマー以外で就職を目指す学生が、トリミングの技術があることが就職に有利になると考える学生が選択するトリミング実習。	1通	90	3				○	○		○					
○		トリミング実習 3 (2年次)	将来トリマー以外で就職を目指す学生が、トリミングの技術があることが就職に有利になると考える学生が選択するトリミング実習。	2通	90	3				○	○		○					
○		ペットエステ概論	ペットエステの基礎について学ぶ。	1通	30	2	○		△	○		○						

○	動物看護概論 2 (1年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護概論	1通	60	4	○			○		○							
○	動物看護概論 2 (2年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護概論。資格試験対策も行う。	2通	60	4	○			○		○							
○	動物看護概論 3 (1年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護概論	1通	60	4	○			○		○							
○	動物看護概論 3 (2年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護概論。資格試験対策も行う。	2通	60	4	○			○		○							
○	動物看護実習 2 (1年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護実習で、エル動物病院の小山田院長が担当する。	1通	90	3				○	○							○	○
○	動物看護実習 2 (2年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護実習で、エル動物病院の小山田院長が担当する。	2通	90	3				○	○							○	○
○	動物看護実習 3 (2年次)	将来動物看護師として就職を目指す学生が選択する動物看護実習の応用。	2通	120	4				○	○							○	
○	ヒューマンアニマルポンド概論 (1年次)	定期的に学校犬を連れて老人ホームへ慰問を行い、高齢者と学校犬との触れ合いを通して、人間と動物の関係の良い在り方を学ぶ。	1通	60	4	○					○	○					△	○
○	ヒューマンアニマルポンド実習 (2年次)	定期的に学校犬を連れて老人ホームへ慰問を行い、高齢者と学校犬との触れ合いを通して、人間と動物の関係の良い在り方を実践的に学ぶ。	2通	60	2		○				○	○					△	○
○	訓練実習 1 (1年次)	犬の訓練士育成のため、本校教員が実践的に実習を行う。	1通	240	8				○	○							○	
○	訓練実習 1 (2年次)	犬の訓練士育成のため、本校教員が発展的に実習を行う。	2通	240	8				○	○							○	
○	訓練実習 2 (1年次)	犬の訓練士育成のため、学生個人個人専用の担当犬を設け、実践的に実習を行う。	1通	60	2				○	○							○	
○	訓練実習 2 (2年次)	犬の訓練士育成のため、学校に企業の訓練士を招き、企業の訓練士が実践的に実習を行う。	2通	60	2				○	○							○	○
○	訓練実習 3 (1年次)	犬の訓練士以外の職業を目指す、調教の基礎を身につけることによって、就職が有利になると考える学生が選択する授業。	1通	120	4				○	○							○	
○	訓練実習 3 (2年次)	犬の訓練士以外の職業を目指す、調教の応用を身につけることによって、就職が有利になると考える学生が選択する授業。	2通	120	4				○	○							○	





		○	海外ビジネス研修	トリミングコンテストや動物病院・ペットシェルター等の見学を通して、ペットビジネス先進国の文化を学ぶ。	2 後	50	2			○			○	○		
合計					57	3998単位時間( 188単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
2年以上在学し、87単位以上履修し、校長より課程修了の認定を受ける。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週